

写真』を主役とし、エディトリアルデザインによる読みやすく見やすい編集、そして保存に耐えうるしっかりとした美しい造形(本)として仕上げ提供しているところもある。「先生方の口コミも含め、こういう信頼されるフォトスタジオが確実に売上を増やし、利益を確保し、生き残っていく」という傾向が顕著に表れている。

こうした状況下、博進堂では「行事がなくてもつくれるアルバム」のサービス提供や、顧客と一緒にテーマを決めて「オンラインセミナー」を展開し、ともに学ぶ教育の現場を作ったり、各社のコロナ対策などの情報交換も行なっている。また全日本学校アルバム印刷組合として協力し、以下のような取り組みにも力を入れている。

まず、旧態依然とした行事にとらわれているアルバムから、新しい時代における学校アルバムの企画、シナリオ、提案に注力。「学校アルバムそのものがなくなることを意味するのではなく、旧態依然としたアルバムのシナリオ、作り方が問われているのだという。また「生徒参加型による制作プロセスでアルバムの価値向上を啓蒙」「卒業式まで取り込んだアルバム作り」に加え、「納期を厳守するためにも希望納品日の40日前までに校了していただけるようなスケジュールでの進行や、無料化している画像修正や補正などを、フォトスタジオに賦課金として有料化をお願いしている」という。

清水氏は「フォトスタジオ、学校、メーカー印刷会社がワンチームとなって生徒1人ひとりの心に残る価値あるアルバム作りが行われ、携わる皆が適正利益を確保できるようにすることこそが、この業界の生き残る道」と捉えている。なお、制作工程については「従来は『紙』で要望される校正が、今後はペーパーレスとなっていく」ことが予想されるという。

スタジオ&フォトグラファーと共存共栄しながらサービス拡充

「厳しい状況だからこそ、共存共栄を第1に考え、当社のシステムを活用していただきながら、売上につなげていただきたいと思います」と語るのは株式会社夢ふおと代表取締役・林さゆり氏。卒園・卒業アルバム制作会社として、創業時から「思い出をカタチにして残すこと」にこだわり、アルバム事



夢ふおとが保育園・幼稚園・学校団体向けに公開した「卒業・卒園アルバムレスキュー相談室」特設サイト。同サイトでは「卒業・卒園アルバムお困りごと解消ガイド」の無償配布も実施。

業を中心に「思い出の価値」を伝え、残すサービス・ソフトを開発してきた。卒園・卒業アルバムは累計100万冊を突破。コロナ禍でも、さまざまな施策を打ち出している。

本年は、検討時期の3～4月にかけては昨年度に比べてネットでの問い合わせが半減(約50%)したが、検討時期が夏頃にずれただため、7月以降は200%という結果になっている。

「コロナの影響で卒業式や入学式が執り行えない学校も多いなか、納品したお客様より『卒業式がなくなったので、アルバムだけでもあって本当に良かった』などといったお礼状を頂戴しました。そこで当社にできることは何かを考え、支援の一環として、卒業アルバム自体も作成していない全国の学校に向けて『卒業アルバム無償作成』という取り組みを大々的に展開しました。実際に鹿児島の卒業生7人の卒業アルバムなど、多々お喜びの声をいただけました」。

同様に、今年の入学式も「フォトグラファーが撮影に入ることができない」「保護者も子どもの晴れ姿を見ることができない」「集合写真の撮影自体ができない」といった状況を受け、通常行う集合写真撮影ではなく、教室で先生が新入生の個人写真を同社アプリで撮影。データを預かり、各クラス単位の「入学記念写真の作成」も無償で実施した。こうした取り組みは「集まらない集合写真」としてテレビ番組にも取り上げられ、反響を呼び、多忙の日々が続いた。

「当社デザイナーが1人ひとりの生徒を合成して集合写真に仕上げ、何か少しでもお役に立てたら、という想いを込めて仕事をさせていただいています」。同社ホームページには、コロナ禍の卒業アルバム作りを応援することを目的とした特設サイト「卒業・卒園アルバムレスキュー相談室」を立

ち上げ、自身の写真で構成するパーソナライズなページ作りや豊富なデザインアイデアなど、コロナ禍のアルバム制作に関するさまざまな情報を掲載。全国の保育園・幼稚園・学校団体・アルバム委員を対象に「卒園・卒業アルバムお困りごと解消ガイド」の無償配布(7月27日～、先着100校)も開始した。

一方同社では、コロナの影響で行事がなくなるなか、卒業アルバムだけでなく日常の子どもの貴重な思い出をもっと手軽に家庭へ届けるために、インターネット写真販売「Totttte(トッテ)」も展開。従来の写真展示販売における先生の業務負担の軽減や、自動顔検索機能(うちの子フィルター)を搭載し、保護者も気軽に写真を購入することができる。卒業アルバム専用ソフトとの連携もしているため、写真販売から整理、アルバム作成まで一貫して利用でき、現場の先生へのアルバム制作での負担も軽減できる。

「プリント市場は、まだまだ拡大できる可能性があると思うし、ボリュームをさらに増やしていくためにも、これから写真館やフリーランスとして活動されているフォトグラファーの方々と一緒に活性化していきたいと考えています。引き続き当社では、さまざまなソフトやサービスを展開していくので、ご注目ください」と林氏は力強く語る。

さらに付加価値を高めた機能やサービス実装できる可能性アリ

本特集では、インターネット写真販売サービスを専門に手がける各社を取材したが、フォトスタジオをはじめとする取引先の多くがコロナにより休校、行事の延期等に伴う撮影キャンセルで厳しい状況下に置

かれている。

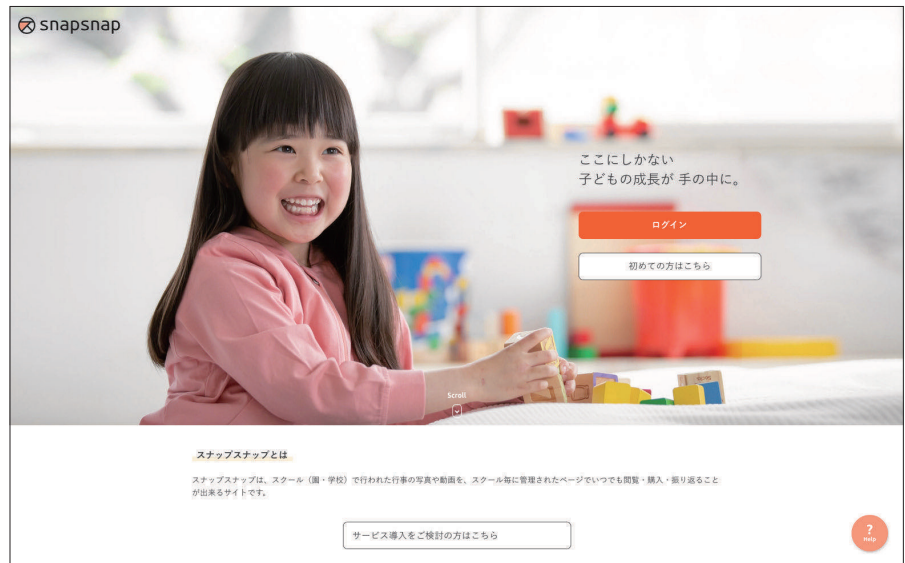
株式会社フォトクリエイトと株式会社ラボネットワークの「IT×ラボ」による「スナップスナップ」も、緊急事態宣言解除後に新規でインターネット写真販売を開始するフォトスタジオをはじめとする取引先が増え始めたものの、売上の回復はまだ見られないのが現状のようだ。

しかし、これまで展示販売が主体だった学校がインターネットでの写真販売に前向きとなり、学校側からの意向でインターネット写真販売への切り替えを行うケースが増加しているという。ラボネットワークでも、すでに「スナップスナップ」を活用しているスタジオ向けや、これから導入を検討する店舗向けなどのセミナーをWebで実施するなど、「これまではPHOTONEXTなどで訴求してきたことをWebにて展開し、サポート面でのさらなる強化を図っている」そうである。

過去に本誌でスクールフォト関連の特集を組んだときは、学校行事のスナップ写真は依然として展示販売スタイルがまだまだ中心と触れてきたが、スナップスナップとしても「教員の働き方改革により、コロナ以前から学校の現場でかかっていた作業負担（壁展示における現金の集金や管理など）が見直され、利便性の高いインターネット写真販売の導入が促進されていた」と捉えている。教育現場でのICT活用推進によってスクールフォトのEC化は成長期へと突入しており、これに伴い「スナップスナップ」の導入件数も右肩上がりで見込んでいるようだ。

「スナップスナップ」で注文される写真は、基本的にはプリントで納品されるが、筆者が以前から気になっていたのが「卒業アルバム」への対応である。少子化が進むなか、スタイリッシュなアルバムの需要が増してきたり、また児童の個人ページが取り入れられるケースも出てくるなど、同種のアルバムという納品スタイルのみならず、児童・生徒によってカスタマイズされたオリジナリティあふれる卒業アルバムの人気も高まっている。一方で、学校によっては「コストよりも品質」にこだわり、まだ少数だが高級志向のアルバムを制作する動きも見られる。

「スナップスナップ」を提供するフォトクリエイトとラボネットワークでは、「卒業ア



「スナップスナップ」の導入件数は右肩上がりで見込んでいるようだ。



ルバム」と銘打った展開はなく、その予定も現状ではないということだが、これまでは何度か検討してきたようで「インターネット写真販売でも、写真プリントだけでなく、記念品など、ラボだからこそ作ることができる商品も発注できるような、将来的にはそんな機能アップを図ることができれば」とも考えているようだ。

こうした付加価値の要素を取り入れることで、単価アップも見込める。フォトスタジオのなかには、三密を避けるために撮れなかった入学式の集合写真を、児童・生徒の個人写真で合成して作り上げたところもあり、手間暇はかかるも学校側からは好評だったようだ。このようなひと手間かけた取り組みのみならず、展開するサービスに祖父母へのプレゼント用などに複数冊注文可能といった機能も加われば、さらなる単価を上げることもできるのではないだろうか。

また今後、あらゆる商品の決済を1本化できれば、ますます使い勝手に優れたシステムになるだろう。これら付加機能は、現時点では機能化されていないが、さらに利便性の高いシステムへと進化させる構想と

して、学校、児童生徒・保護者、フォトスタジオすべてにメリットのある内容にできる可能性は十分にある。そんな未来性を今回の取材で垣間見ることができ、コロナ禍だからこそ、需要創出に向けてできることが、まだまだ湧き出て来そうな予感である。

顔検索をはじめとする高度な機能とデザイン面を大々的にリニューアル

本誌の取材で、コロナによる売上不振が「4月頃から顕著に出始めた」というところが散見される。株式会社イメージテックも、新規の取引が増えている傾向もあり、本年1～3月までは2桁増と順調に推移していたが、4月から一転して2桁減となった。7月からは少しずつ回復基調にあるものの、前年実績は下回っている。

取引のあるフォトスタジオは約1,000軒に上る。学校写真を手がけるスタジオは、行事の中止に伴って売上が大幅に下がっているところが中心だが、落ち込み幅は地方によって多少なりともバラツキが見られる。都内のように感染者が多いエリアと、そうでない地域では、学校側の動きも少な